

# 山里をゆく ミニ図書館

県立図書館では、直接県立図書館を利用できない地域の人々の読書意欲を満たすために昭和三十五年から館外サービスという形で移動図書館を実施している。約二千冊の本を乗せて走る二台の移動図書館車「いずみ号」は四代目と五代目。県下九十五市町村、百三十七会場を巡回している。

「いずみ号」は婦人会、職場等の読書グループに加入するか、市町村の教育委員会に申し込みれば誰でも利用できる。

◀一冊の本との出会いが思わぬ自己啓発を招く例も多い



(写真は鹿本郡鹿北町)

▲ひところ、活字ばなれが云々されたが、人々は次第に活字へもどりつつあるという。本とのふれあいを求める人々が待つ会場へと『いずみ号』は走る。

